

**\*夏至 (L' ETE - le solstice d' été )**

6月21日は夏至、一年で昼が最も長く、夜が最も短い日、いよいよ夏を迎えます。若葉の緑が次第に濃くなり、時折の雨に暗く鬱蒼と見えるようになるのもこの頃です。夏至の夜はフランス全土が“音楽祭”(Fête de la musique)、今年で33回目を迎えるこの催しは、街の広場、公園や街角、劇場やレストランなど各所で、プロもアマチュアも、コンサートを開いたり、演奏し唄って踊って、賑やかです。隣近所に断る必要も無く、例え下手であっても嬉しいと文句も云えない一夜です。



朝市を覗きますと、ペリゴール産の香りの良い苺“ガリゲット”(la gariguette)、プロヴァンス産の大粒の桜ん坊“ビガロー”(le bigarreau)などが真っ赤に艶々と並べられています。カヴァイヨンのメロン(le melon de Cavaillon)も熟した様です。ブルターニュ産のアーティチョーク“アルティショー”(l' artichaut)、“朝鮮アザミ”と訳すのでしょうか、綺麗な緑色、仏像が手にする蓮の花を思わせる形で、ヴィネグレットで食べると美味しいものですが、茹でるのに大きな鍋が必要ですし、茹で上がるのに少々時間が掛かる厄介な野菜です。全国各地一斉に行われる大学や高等専門学校などへの入学資格試験“バカロレア”(le baccalauréat) (通称“バック”)が全て



無事に済めば、夏休み(les vacances d' été)が待っています。日本はそろそろ梅雨の頃でしょうか。

**\*英仏海峡海底トンネル開通 20年を祝う****( LE TUNNEL SOUS LA MANCHE FETE SES 20 ANS )**

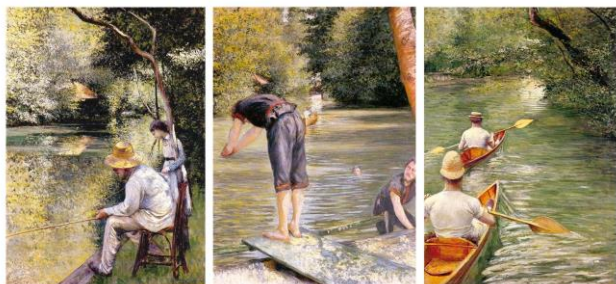
その昔から理想とされ、色々な企画案が出されていたにも拘らず、政治的、戦略的、そして技術的な諸問題から、長らく実現に至りませんでした。英仏両国のみならず、日本も金



銭的、技術的に参加して工事が始まったのは1988年の事でした。それから6年間、多くの困難との戦いの結果、1994年6月1日、世界で一番長い海底トンネルが開通しました。(Après 6 ans de construction, le plus long tunnel sous-marin au monde a été ouvert à la circulation le 1er juin 1994.) トンネルの全長はフランスのコケル(Coquelles)からイギリスのフォルケストン(Folkestone)間50km、海底部分38km、海面から100m、海底から40mの地中にトンネル3本を掘り、中央は直径4,8mの整備と非常時用、左右2本は30mの間隔で直径が7,6mの

鉄道用トンネル、という構造で、250m 毎に空調と列車通過時に起こる空気の圧力を抜く為の装置、375m 毎にこれら 3 本のトンネル間を結ぶ通路が設けられています。今では“ユーロ・トンネル”と呼ばれ、このトンネルの開通で高速列車“ユーロスター”がパリ・ロンドン間を 2 時間 15 分で結ぶようになりました。(Grâce à ce tunnel, Londres est à 2h15 de Paris par le train « Eurostar ».) この 20 年間で既に 3 億 3 千万の人が通過しています。

**\*イエールのカイクボット」展 (Expo. « CAILLEBOTTE à YERRES »)**



印象派画家の一人ギュスタヴ・カイクボット (Gustave Caillebotte(1848-1894))の展覧会がパリから電車と徒歩で 40 分程のエソンヌ県イエール(à Yerres,dans l' Essonne)にある、画家が長らく住んでいた家で開かれています。画家自身も近くを流れるイエール川で釣りや舟遊びに興じ、庭で園芸を楽しみ、その様子を描いた作品が多い事から、このイエールの田園での長閑な生活が画風を磨き上げたと言われていています。(C' est à Yerres que s' élabore son style, dans la douceur de vivre de ce cadre champ ê tre.)市の所有になってからは、15 年もの年月をかけて改修・整備が為され、丁度ジベルニーのモネの家の様に、今回の展覧会の機会に一般公開となったものです。



当展では 43 点の作品が展示されています。

パリのオルセー美術館、マルモタン美術館ばかりでなく、アメリカのワシントン・ナショナル・ギャラリー・オブ・アート、ミルウォーキー美術館、インディアナ大学美術館からの貸し出し、そして個人のコレクターからの提供等々、殆どがめったに見られない或いは初めて公開されるものです。



**La propriété Caillebotte**

アドレス：8, rue de Concy 91330 Yerres  
7月20日迄、月曜日を除く毎日 10 時-18 時  
(金曜、土曜は 20 時 30 迄)

au Centre d' art et d' expositions « La Ferme Orn é e » にて入場料 8 ユーロ  
庭園は入場無料。

交通＝パリ・リヨン駅から RER D 線で約 20 分、Yerres 駅下車徒歩 15 分、車で行くには N19 で Boissy-Saint-L é ger 方面へ向かい Yerres (GPS：10,rue de Concy, 91330 Yerres)



## \*幅が広すぎた列車 (DES TRAINS TROP LARGES)

French Railway Company Orders New Trains For \$20.5 Billion, Finds Out They Are Too Wide!



中短距離用に国鉄(SNCF)が注文していた新しい電車 341 輛(Alstom182、Bombardier159)の内 48 輛が出来上がり、試運転をしたところ、真っ直ぐな所はプラットフォームにギリギリ、カーブしている駅では車体が擦れてしまうことが解り、この新車輻を使用予定の路線の 1300 駅のホームを最低 2cm 削らねばならなくなりました。(les 1300 quais doivent être rabotés 2 cm au moins)

場所によっては電車同志のすれ違いもギリギリで、軌道そのものも少し動かさなければならない状況に、ざっと 5 千万ユーロの工事費が必要となりました。

国鉄側は「19 世紀以来バラバラであった規格を新たに見直すよいチャンス」とすましたのですが、運輸省側は「自分の車庫に入るかどうか知らずに新車を買うのと同様の無茶な事」(C'est comme si vous achetiez une nouvelle voiture sans vous préoccuper de savoir si elle passera dans votre garage.)と、発注当時に遡って厳しく調査を開始しました。

2009 年にも同様の事があったとも聞きますが、私が利用している RER B 線でも、蒸気機関車が客車を引いていた時代に機関車のピストンが当るからとホームが低いままの駅が幾つかあり、現在使用している車輻の全ての乗降口には、ホームの高さによって高低を調節するステップが付いています。

ホームの高さを標準並みにする為日曜祭日や夜間 21 時以降に電車の運行を止め、代替バスを出して工事が行われていますが、或る日家内がホームの低い駅で電車が来たから乗ろうとしたが、故障か運転手が忘れたのかステップが下がらず、どうやって乗ろうかと思案していたところ、急に体がフワッと浮いて電車に乗っていた、実は見るに見かねた黒人のお兄さんが抱き上げてくれたのだった、と云っていました。そう云えば“近代化”(la modernisation)と銘打って、運行停止や駅の閉鎖などが堂々と、しかも頻繁に行われ、その上ストライキもあり、利用者が我慢を強いられる中で工事が進められているこのような状況、日本だったらどうでしょうか。



\*2014 年 6 月 15 日 Sainte Germain 日の出 05 時 46・日の入 21 時 55 気温：パリ朝夕 11℃・日中 22℃晴天、ニース 20℃・23℃雨天、ストラスブール 12℃・24℃曇天 お元気で、普